



旅行好きのソムリエが、世界のあっちこちから
死ぬ前に一度は見ておくべき町を厳選してご提案します。
私があなただの次の旅をもっとわくわくさせますよ!

オーストラリアのワイン生産地巡り

寒い。日本の冬が寒すぎる。しばらく暖かい国で過ごし、1月や2月に帰国した友人がそう言うって寒さに震え上がっている姿をよく目にします。四季折々の美しさがあるのは日本の魅力ですが、冬の寒さはやはり身に堪えるもの。そんな時は、南の島、常夏の楽園、一年中暖かい国がやっぱり羨ましい!

気候が人間に与える影響は思いのほか大きいもので、地理的に日照時間が短い地域に住む民族は、自殺率が高かったり、気質的に悲観論者や猜疑心の強い人が多くなるというデータが出ています。日照時間が短くなると通常よりも光の刺激が減り、その結果、神経伝達物質のセロトニンが減って脳の活動が低下してしまうのが主な原因だそうです。

通常は暖かい季節になるにつれて改善されていく症状ですが、冬の間ずっと物悲しい気持ちを抱えて過ごすなんて我慢できない。一年を通して同じ場所でも過ごさなければいけないなんて一体誰が決めたのでしょうか? いっそのこと苦手な季節は他の国を拠点とする生活を考えてみるのも一案です。たとえば日本に太陽の光が当たっていないくとも世界のどこか他の場所には必ず光が降り注いでいるのですから。実際に私の周

- ① 真夏のクリスマス
- ②~④ ペンフォールズでのワインテイスティング
- ⑤~⑦ バロッサ・ヴァレーのピーター・レーマン



りにも暖かい地域に移住してから別人のように性格が明るくなった人が何人かいます。季節によって住む場所を変えるなんて現実的でないと思われるかもしれませんが、自分にとって最も活動しやすい気候、暮らしやすい国を知ることが人生の幅を広げるはず。日本と季節が真逆にある国で暖かい冬を過ごしてみる——試してみても損はありません。

ニュージーランド、オーストラリア、チリ、アルゼンチン、ブラジルなど、南半球に位置する国は日本と季節が逆転し、例えばオーストラリアだと、12月から2月ぐらいが夏、6月から8月ぐらいまでが冬になります。真夏にクリスマスを迎えるオーストラリアでは、雪だるまや雪の結晶といった冬をイメージした飾り付けは一切なく、気持ち良さそうにサーフィンをするサンタクロースがクリスマスの風物です。

「No problem.No worries.」大丈夫、気にするな」が口癖のオージー達と、乾いた風に吹かれながら薄着で過ごすうちに、彼らの大らかな気質が伝染して肩力が抜けていくのを感じられるはず。日本とは違うのんびりした時間の流れに第二の故郷を見つけてしまうかもしれませんよ。気持ちよく過ごせる場所は、沢山あるほうがいいのです。

ンドリーな国民性からか、生産者も気さくな人が多く、終始あたたかい対応をしてくれるのは訪問者にとって嬉しいところ。

また同時期、比較的涼しい南部の沿岸部に集まっている各ワイン生産地ではぶどうの収穫祭や地元のワインとフードのペアリングイベントも多数開催されています。中でも毎年3月にメルボルンで開催されるフード&ワインフェスティバルは、南半球最大規模の食の祭典であり、国際的に有名なシェフやワイン生産者も数多く参加している一大イベント。メルボルンは「世界で最も住みやすい都市ランキング」に6年連続で1位に選ばれており、同時に「世界で最もフレンドリーな街ランキング」でも1位に輝いた、旅行者にとびきり親切な街。市内のあちこちに美しい庭園や歴史的建造物があり、郊外に行けば豊かな自然を満喫できるため、オーストラリアのいいところ取りとも言われている魅力的な街です。